

伊勢崎市史編さんだより 第2号

# いっさき古今東西

令和7年(2025)11月

編集発行 伊勢崎市教育委員会

図書館課市史編さん室

〒372-0055 伊勢崎市曲輪町 22-21

TEL 0270-23-2346

Eメール shishihensancity.isesaki.lg.jp

※市史編さん室は12月1日から下記の場所に事務室を移転します。

新住所：〒372-0045 伊勢崎市上泉町 116 新電話番号：0270-25-1098

## 第2回伊勢崎市史編さんシンポジウム「すばらしき東国埴輪の世界

—伊勢崎の埴輪を語る—を開催しました。

シンポジウムは令和7年3月23日(日)にメガネのイタガキ文化ホール伊勢崎にて開催しました。会場前では、伊勢崎地域で初めて発見された埴輪窯「石山埴輪製作遺跡」の展示コーナーも設置し、見て聞いて触れるシンポジウムとなりました。

当日は370人の来場者があり、国内第一線で活躍する研究者たちの話に聞き入っていました。



### ハニワ博士に質問してみよう～場外編～

質問コーナー「ハニワ博士に質問してみよう」にはたくさんの質問が寄せられました。ここでは、会場でお答えできなかった質問をいくつかご紹介します。これ以外にもたくさんの質問が寄せられました。紙面の都合上、紹介できなかったみなさん申し訳ありません。

#### 質問：はにわはどうやってつくるの？

答え：粘土をこねて形を作ります。粘土には、丈夫にしたり、うまく焼けるように砂利を混ぜたりもします。板などを使って表面をきれいに仕上げていきます。その後、乾燥させたうえで火で焼きます。工人と呼ばれる、現代の職人さんのような人がいたと考えられています。古墳時代後半になると埴輪を窯(かま)で焼くようになります。



#### 質問：日本以外にも古墳や埴輪はあったのですか？

答え：古墳は韓国にもあります。ですが前方後円墳は日本独自のお墓のスタイルです。実は韓国にも前方後円墳や埴輪がわずかにあります。ともに作られた時期もごく短い期間で、移住した日本人がつくったものか、日本人から教を受けた現地の人によりつくられたものかのいずれかと考えられます。

## 質問：一番古い埴輪はどれくらい前のものですか？



答え：埴輪の起源をたどると、弥生時代後期、お墓にお供え用に使った壺と台（器台といいます）に行きつきます。弥生時代の終わりになると器台が大きく作られるようになり、お墓の重要な場所に立てるようになります。これを特殊器台と呼びます。やがて台としての機能が完全に失われ、特殊器台型埴輪と呼ばれるものになります。この特殊器台形埴輪が一番古い埴輪であり、つくられたのは3世紀後半、今から1750年くらい前になります。

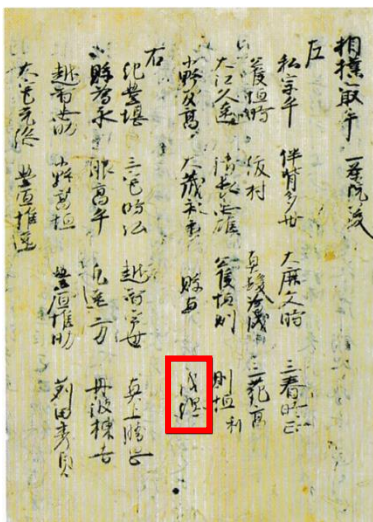
### 調査こぼれ話 1

48年前の流行語に「天は我々を見放した」という言葉があります。これは昭和52年（1977）に公開された映画『八甲田山』の中でのセリフです。映画や原作小説『八甲田山死の彷徨』<sup>ほうこう</sup>（新田次郎著）のモデルとなったのは、明治35年（1902）1月に起きた八甲田山雪中行軍遭難事件です。当時の日本陸軍は対ロシア戦を想定した冬季訓練が必要でした。そのため青森歩兵第5連隊と弘前歩兵第31連隊が厳冬の八甲田山で雪中行軍演習を行いました。記録的な寒波の中で行われた演習では、青森隊は210人中199人が凍死、弘前隊は37人全員が生還するという結果となりました。弘前隊を率いていたのは、伊勢崎市境平塚出身の福島泰蔵大尉<sup>ふくしまたいぞう</sup>でした。市史編さん室では、生家に残されていた士官学校時代から日露戦争で戦死するまで、本人が勉強していた書籍やノート、手紙類、顕彰碑を建立するまでの記録などを整理しています。福島大尉が書いたノートを見ると、勤勉で1つのことを徹底的に追求する姿がよく見えてきます。残された史料からは、歴史的な事実だけでなく、その人のひととなりや生きざまも見えてくるのです。

## 市史編さんコラム いせさを識る

第2回 中世部会長 築瀬 大輔

### 平安時代の郷土力士・那波成綱



九条家本中右記部類・第七(断簡)  
平安時代 群馬県立歴史博物館蔵

およそ900年前、平安時代の白河法皇<sup>しらかわほうおう</sup>の治世、上野国那波郡<sup>こうすけのくに なわぐん</sup>（伊勢崎市）に那波成綱<sup>しげつな</sup>という武士がありました。平将門<sup>たいらのまさかど</sup>の乱（935～940）を平定した藤原秀郷<sup>ふじわらのひでさと</sup>につながる名門の武士です。成綱は関白藤原忠実<sup>かんぱく ただざね</sup>の家来として京都でも活動していました。その縁で宮中行事・相撲節会<sup>すまいのせちえ</sup>の相撲人<sup>すまいにん</sup>に召し出されました。相撲節会は疫病などの邪気<sup>じゃき</sup>を払うために、全国から強者を集めて天皇の御前で相撲を取らせる夏の行事です。成綱は長治元年（1104）に堀河天皇<sup>ほりかわ</sup>の御前で、天永2年（1111）には鳥羽天皇<sup>とば</sup>の御前で相撲を取りました。

成綱<sup>いちじょう</sup>は一条天皇<sup>ほて</sup>以後のおよそ100年間の最手<sup>いえずな</sup>（今の横綱・大関）30傑に名を連ねるほどの名手でした【写真】。実子足利家綱も相撲人を務めました。